

「経営基盤の再構築」と、「収益の『安定』と事業の『成長』に向けた布石」を打つことにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。



代表取締役社長

川崎博也

株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

さて、前期まで2期連続最終赤字を計上し、株主の皆様には大変ご心配とご迷惑をお掛けし申し訳ございませんでしたが、全社一丸となって収益改善に取り組んだ結果、当社グループの当期の業績は、3期ぶりの黒字を確保し、1株につき4円の期末配当を行なうことができました。この間の株主の皆様のご支援に感謝申し上げます。

さて、当期は黒字化を達成したとはいえ、当社を取り巻く環境は、国内は改善しているものの、海外情勢は不透明な状況にあります。このような状況下でも確実に収益を上げるべく、当社グループは、昨年策定した三ヵ年のグループ中期経営計画で掲げた生き残りのための「経営基盤の再構

築」と、勝ち残りのための「収益の『安定』と事業の『成長』に向けた布石」を打つことに引き続き全力で取り組んでまいりる所存です。

現在のところ「経営基盤の再構築」の大きな課題である、「鉄鋼事業の収益力強化」については、加古川製鉄所の新溶銑予備処理設備が本年4月に稼動を開始するなど順調に進捗しております。その他の戦略投資や収益改善策に引き続き取り組み、その効果を着実に取り込んでまいります。

また、成長分野・地域での最大販売量確保にも取り組んでおり、昨年秋に、自動車軽量化の需要のある中国において、自動車ハイテン鋼板の製造・販売に関する合弁事業契約を締結するほか、自動車パネル用アルミ板材製造・販売会社を設立しました。今後も、グローバル市場での成長分野の需要の取り込み施策を進めてまいります。

グループ中期経営計画で掲げたもう一つの施策である「収益の『安定』と事業の『成長』に向けた布石」としては、製鉄事業の上工程の加古川製鉄所への集約と最新鋭設備の設置などによりコスト競争力の強化を図る抜本的な「鋼材事業の構造改革」に着手しております。

また、当社グループの売上高の4割を占める圧縮機・建設機械など機械系事業のグローバル市場での戦略的な拡大にも取り組んでおります。

さらに、将来の安定収益基盤として、電力供給事業の拡大を掲げ、栃木県真岡市でのガス火力発電所建設や神戸製鉄所上工程設備跡地での石炭火力発電所建設に向けて取組みを開始いたしました。

なお、このうち、「鉄鋼事業の収益力強化」や中国での製造・販売拠点設立、「鋼材事業の構造改革」を着実に進めるために、本年2月、公募増資を実施いたしました。

当社グループは、これらの施策を着実に実行するとともに、安全管理の徹底、コンプライアンスの遵守を図ることで、持続的な企業価値の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜われますようお願い申し上げます。

平成26年6月

※中期経営計画の詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

業績ハイライト(連結) (表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

